

平成 28 年度 事 業 報 告

【概 況】

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるようにするための、地域包括ケアシステムの実現に向けて、本年度は「生活支援コーディネーター」配置による「生活支援体制整備事業」を受託し、地域で暮らす高齢者のニーズと地域資源の調査を実施し、地域における取組を支援、推進しました。また、これまでの地域のささえあい活動の基盤の上に、新たな住民参加型サービス等の導入を図るため、市民を対象とした生活支援ボランティア養成講座も開催しました。

28年4月に発生した熊本地震では、益城町、熊本市、県下多くの地域で甚大な被害が発生しました。幸いにも荒尾市では、家屋倒壊など大きな被害もなかったため、本会としては、救援物資の募集とボランティアの協力による現地への送達を行い、さらに、大津町、益城町の災害ボランティアセンターへは職員を派遣して被災地社協の支援を行いました。職員を現地に派遣して実際の災害ボランティアセンターの運営支援を行ったことで、11月に実施した災害ボランティアセンター設置訓練は、より実践的な内容の訓練形式で実施することができ、職員のスキルアップにつなげることができました。

介護保険事業につきましては、デイサービス事業等、ほぼ前年同様の収入でしたが、訪問介護事業は、利用者の施設入所や入院、また、登録ヘルパーの不足により、新規利用者に対応することができず、前年と比較すると減収という結果になりました。障害福祉サービス事業につきましては、生活介護事業が、荒尾市外の利用者を積極的に受け入れたことにより、新規利用者が増加しました。また、放課後等デイサービス事業につきましては実施日を、土曜日まで拡大したことで増収となりました。しかしながら、居宅介護事業（訪問サービス）が利用者の入所等により大幅な減収となったため、障害福祉サービス事業全体としては、前年と比較すると減収となりました。

収益事業の売店経営につきましては、前年と比較すると100万円ほどの増収となりました。

最後に、介護保険事業及び障がい福祉サービス事業収入が減少し、自主財源の確保が難しい状況ですが、法人全体としては、25年度から3年連続の赤字決算が、28年度はわずかですが黒字で決算を迎えることができましたので、次年度以降もこれを維持できるような経営努力をしていきます。

以下、各事業の実施状況について報告いたします。

法人運営部門

【理事会、評議員会】

(1) 理事会開催

回数	開催日	提 出 議 案
第 1 回	平成 28 年 5 月 27 日（金）	平成 27 年度事業報告並びに収支決算について 平成 28 年度荒尾市資金収支補正予算 1 号について 評議員の選任について

第 2 回	平成 29 年 1 月 18 日（水）	平成 28 年度資金収支補正予算案 2 号について 評議員の選任について 定款変更について 評議員選任・解任委員会運営細則の制定及び委員の選任について
第 3 回	平成 29 年 2 月 27 日（月）	評議員の推薦について
第 4 回	平成 29 年 3 月 27 日（月）	平成 28 年度資金収支補正予算案 3 号について 平成 29 年度事業計画並びに資金収支予算案について

（２）評議員会開催

回数	開催日	提 出 議 案
第 1 回	平成 28 年 5 月 27 日（金）	平成 27 年度事業報告並びに収支決算について 平成 28 年度収支補正予算案 1 号について 理事の選任について
第 2 回	平成 29 年 1 月 18 日（水）	平成 28 年度資金収支補正予算案 2 号について 理事の選任について 定款変更について
第 3 回	平成 29 年 3 月 27 日（月）	平成 28 年度資金収支補正予算案 3 号について 平成 29 年度事業計画並びに資金収支予算案について

（３）監査

開 催 日	内 容
平成 28 年 5 月 17 日（火）・19 日（木）	平成 27 年度会計監査

【会費、寄付金】

（４）会費制度

会員加入状況

		一 般	賛 助	特 別	合 計
26 年度	件数	82	455	34	571
	金額	41,000	455,000	340,000	836,000
27 年度	件数	61	430	36	527
	金額	30,500	430,000	360,000	820,500
28 年度	件数	73	426	35	534
	金額	36,500	426,000	350,000	812,500

(5) 香典返し及び一般寄付

寄付申込み状況

		香典返し寄付	一般寄付	合 計
26年度	件数	395	10	405
	金額	4,512,220	221,286	4,733,506
27年度	件数	390	11	401
	金額	4,585,000	1,678,934	6,263,934
28年度	件数	351	12	363
	金額	4,251,000	389,992	4,640,992

地域福祉部門

【地域福祉サービス】

(1) ささえあい活動推進地区

地域住民の皆さんが地域の課題に関心を持ち自ら考え、主体となって課題解決に取り組んでいただけるように地域の実情に応じた説明会を行いました。

1、高齢者いきいきサロン事業

地域の誰もが気軽に集い、ささえあう居場所となるよう地元にある公民館を活用して歩いて行ける日常生活圏で高齢者どうし交流ができる居場所づくりを地域のささえあいにより取り組んでいただいています。

サロン開設状況

	26年度	27年度	28年度
指定地区数	37	43	48
開設延日数	566	642	642
人員	12,334	13,040	13,373



△打越区サロン開所式の様子

2、買い物支援事業

高齢者の困りごとの一つである買い物を支援するため公民館等における買物支援販売会を実施しています。28年度については大平町と万田西が取り組みを始めていただきました。買い物支援については荒尾市が実施する公民館改修事業の必須項目となっているため、近年は取り組む地区が増える傾向にあります。

買い物支援実施状況

	27年度			28年度		
	回数	購入者	支援者	回数	購入者	支援者
助丸	14	291	58	12	311	60
猫宮	23	149	74	24	154	68
中央	11	242	130	12	116	77
向一部	12	120	120	12	120	36
南増永	6	37	37	12	85	29
大平	—	—	—	20	79	27
万田西	—	—	—	5	5	5
合計	66	839	419	97	870	302

3、日常生活支援

高齢者が在宅で生活をしていくうえで、些細な日常生活上の困りごとを住民組織の支援により解決を図る事業。28年度については新たに向一部区が取り組みを始めました。猫宮区や南増永区については助成基準の上限を超える回数を取り組んでいただき、積極的に取り組みを進めています。また、28年度に実施された高齢者の健康に関する調査に係る市民病院等への送迎についてもこの事業を活用し地域に協力をいただきました。

日常生活支援実施状況

	草刈 剪定	家屋 修繕	買物	ゴミ 出し	蛍光 灯替	その他	合計
猫宮	11		4	5		46	66
南増永	9	3	21	21	5	9	68
向一部						8	8
合計	20	3	25	26	5	63	142

4、地域住民による見守り体制の整備

地域住民による高齢者の見守りの組織を作り、近隣住民の見守りの意識を高めてもらうことを目的に実施しています。近年、取り組む地域も徐々に増加してきており、現在は12地区で取り組み行っています。緊急通報の件数も昨年よりも増えており、確実に見守りの効果があると考えられます。今後も取り組む区を増やしていきたいと考えています。

見守り活動実施状況

	見守り		訪問	緊急 通報	相談
	気配	見掛けた			
東宮内	570	530	424		2
北増永	1,207	703	192	4	28
助丸	635	1,042	110		
上井手上	106	1,101	84	4	
岱洋東	460	570	279		
猫宮	1,028	1,043	230	6	18
万田東	1,306	108	161	1	4
大平町	501	1,100	160	3	87
向一部	202	559	5		
南増永	1,549	1,675	364		
住吉	706	194	59	3	10
城小路	169	102			
合計	8,439	8,727	2,068	21	149

5、認知症徘徊見守り模擬訓練

井手川地区協議会では多くの住民が参加し訓練を通して安心して暮らせる地域づくりや認知症について理解を深めるため、前年度に続き、認知症徘徊模擬訓練を実施しました。今回の訓練では緑ヶ丘小学校に呼びかけを行い、訓練への参加を促した結果、小学生やその親など若い世代も声かけ訓練に参加いただきました。

井手川地区協議会徘徊模擬訓練

○井手川地区協議会説明（第1回）

日 時 1月15日（日）
場 所 深瀬ヶ丘公民館
内 容 徘徊訓練について説明

○第1回 実行委員会

日 時 2月3日（金）
場 所 総合福祉センター会議室
内 容 訓練の実施方法について

○井手川地区協議会説明（第2回）

日 時 2月19日（日）
場 所 深瀬ヶ丘公民館
内 容 訓練の実施方法について



△井手川地区協議会での説明

○第2回 実行委員会

日 時 3月12日(日)

場 所 総合福祉センター会議室

内 容 訓練の各担当について

○事前学習会

日 時 3月12日(日) 10時

場 所 総合福祉センター大会議室

内 容 認知症の方への対応方法、
ロールプレイ



△事前学習会ロールプレイの様子

日 時 3月12日(日) 19時

場 所 古庄原公民館

内 容 認知症の方への対応方法、
ロールプレイ



△たくさんの子供たちが
勇気をもって声掛け
をしてくれました

○訓練の実施

日 時 3月19日(日) 9:00~12:00

場 所 井手川地区一帯

内 容 情報伝達訓練、搜索・声かけ訓練、反省会

結 果 訓練参加者 72名

6、子育てサロン

家庭や地域の子育て力が低下しているところから地域における子育て支援の取り組みを充実させ安心して子供を育てることができる社会づくりを進めるため、地域で孤立しがちな子育て中の方が集うことのできる居場所または子どもたちが公民館等に出かけることができる居場所づくりを地域のささえあいにより実施していただいています。

この子育てサロンについては28年度より新たにささえあい活動のメニューとして開始をしました。2地区より申し込みがあり、子育て中の親の支援、子どもの居場所などの趣旨で取り組みを進めていただいています。

子育てサロン実施状況

	東宮内	住吉
28年度	6回	3回



△東宮内区の活動の様子

(2) 介護予防・生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター）

28年度より荒尾市より受託して実施しました。28年度は総合事業の本格実施に向けた準備の年と位置付け、以下に示すとおり、地域資源の開発、住民参加型在宅福祉サービス立ち上げのための生活支援ボランティアの養成、社会資源調査、地域のニーズ調査などの事業を展開しました。

○生活支援ボランティア準備会議（協議体会議）の実施

協議体の設置が義務付けられていますが、この会議は協議体設置の前段階の会議として位置付けられており、必要とされる社会資源をいかにして作り出していくかを検討する会議として6回開催しました。28年度は生活支援のボランティアの仕組みが必要という判断でボランティア養成講座の開催や住民参加型在宅福祉サービスの導入をこの会議で決定しました。

開催 5月19日（木） 7月20日（水） 9月23日（金）
11月28日（月） 1月23日（月） 3月28日（火）
場所 荒尾市医師会在宅ネットあらお

○地域ケア会議出席

地域ケア会議開始に向けた準備を荒尾市が進めていて、28年度は模擬会議を開催されたことから、第1層の生活支援コーディネーターが参加。地域のニーズ、社会資源活用等のアドバイスをを行いました。

第1回模擬会議

開催 10月31日（月）
場所 荒尾市役所 会議室

第2回模擬会議

開催 1月31日（火）
場所 荒尾市役所 会議室

第3回模擬会議

開催 3月15日（水）
場所 荒尾市役所 会議室

○生活支援コーディネーター活動（事務作業等は除く）

受託の初年度ということもあり、手探りで事業を実施しました。地域資源の立ち上げ、社会資源調査、地域ニーズ調査、ボランティアの養成などの事業を実施しました。

第1層 延べ活動件数 171件
第2層 延べ活動件数 海陽中担当 168件
四中担当 160件
三中担当（3月より配置）20件

○生活支援ボランティア養成講座

住民参加型在宅福祉サービス（生活支援ボランティア制度）の立ち上げに向け、ボランティアの掘り起こしと登録を目的に生活支援ボランティア養成講座を開催。９月から１０月の２か月にわたり合計５日１０講座を開催しました。当初予定していた参加よりもはるかに多い参加がありました。

開 催	９月 ２日（金）	①地域福祉について	②ボランティアって何？
	９月１６日（金）	①認知症サポーター	②傾聴、コミュニケーション
	９月３０日（金）	①介護保険について	②おうちの整理術
	１０月１４日（金）	①在宅福祉について	②タブレット、スマホ講座
	１０月２８日（金）	①在宅医療、看護	②生活支援ボランティアとは
場 所	荒尾市医師会 大会議室		
申込数	５５名		
修了者数	４１名		
登録者数	４２名		

２８年度末現在ボランティア登録数 １０４名



△おうちの整理術講座の様子

○ささえあい活動新規立ち上げ及び支援

２９年度からの総合事業開始を見越した時にもっと必要と考えられるのが地域のささえあいであることから、ささえあい活動の新規の立ち上げを重点的に取り組みました。

・サロン ５ヶ所

庄山	７月
万田西	８月
揚増永	３月
打越	３月
岱洋西	３月

・買い物支援 １ヶ所

万田西	８月
-----	----

・見守り活動 １ヶ所

住吉町	１１月
-----	-----

・日常生活支援 １ヶ所

向一部	１月
-----	----

・認知症徘徊訓練 1ヶ所

井手川地区協議会

訓練について説明	1月15日(日)
第1回実行委員会	2月 3日(金)
訓練実施シナリオ説明	2月19日(日)
第2回実行委員会	3月12日(日)
事前学習会	3月12日(日)
徘徊訓練の実施	3月19日(日)

・移送支援 3回

住吉町	9月
万田中	10月
辻町	2月

・貯筋体操開始地区 5ヶ所

開	5月
南増永	6月
中一部	10月
揚増永	11月
宮内	3月

・貯筋体操自主活動開始地区(修了地区) 6ヶ所

田倉	5月
境崎	5月
住吉	6月
大谷	11月
山浦町	12月
高浜	3月

○社会資源調査

高齢者向けの生活支援を実施する商店などの情報を収集する。収集した情報は荒尾市のホームページで公開し、ケアマネージャーや住民に周知を徹底した。

商店等の調査

・調査商店数 49店(新規開拓4件)

・掲載可能店舗数 40店

食料品	7店
スーパー	3店
宅配弁当	1店
コンビニ	7店
米店	4店
酒店	3店
クリーニング	6店
衣料品店	1店
美容室	7店
電気店	1店

・廃止店舗 9店

○公民館の利用状況調査

地域の公民館等で行われている非公式な集まり（サークル活動など）の調査を実施。生活支援のつながるものがないか掘り起こしを行いました。

・実施区 12区

本村、新町、東宮内、住吉、月田、万田西、万田東、昭和町、大平町、万田中、荒尾大谷、庄山

○地域ニーズ調査（ヒアリング）

高齢者が住み慣れた自宅で暮らしていくためにはどのような生活支援が必要かを理解するため、実際に公民館等に出向き、直接高齢者からヒアリング調査を実施しました。この調査から分析した結果を今後の社会資源の立ち上げの際の根拠としていきたいと考えています。

・ヒアリング調査の実施

3月 6日（月） 田倉区 11名、
3月 6日（月） はつらつ貯筋体操参加者 2名
3月13日（月） はつらつ貯筋体操参加者 7名

（3）福祉委員の見守り活動

福祉委員は日頃の生活や健康状態、また、心配なひとり暮らしの高齢者の方に対し、声かけや定期的な訪問により安否確認、孤立死や閉じこもりなどを未然に防ごうという活動です。

28年度は平成26年度より委嘱しております福祉委員の任期が3月末日をもって満了となりましたので、福祉委員の改正改選作業を行いました。各区より最低1名を推薦いただくようにしていることから各区の区長等を訪問し、福祉委員の趣旨を説明して各区より推薦をいただきました。今回の改選で87名の福祉委員を設置することができ、社協と地域をつなぐパイプ役として活躍が期待されます。

○研修などの活動

28年度総会

期 日 6月24日（金）
場 所 総合福祉センター大会議室
内 容 27年度事業報告、決算
28年度事業計画、予算
研修「あなたにもマイナンバー」

第1回全体研修会

期 日 11月11日（金）
場 所 総合福祉センター大会議室
内 容 講演「傾聴コミュニケーション
について」

講師 平野いずみ氏

参 加 56名参加



△傾聴コミュニケーション研修の様子

第2回全体研修会

期 日 3月 7日（火）
場 所 総合福祉センター大会議室
内 容 講演「健康講話、複合検診について」
講師 荒尾市保健センター
参 加 78名参加

○情報提供、情報収集強化月間

10月 ・ 3月

○一斉友愛訪問 10月16日（日）
3月20日（日）

○情報提供資料の配布

- ・ 情報提供かわらばんの発行 2回
- ・ その他の情報 随時配布

○地区情報交換会

地域住民が自ら地域の課題を把握し自ら活動する意識を高めるため行政区単位で地域の中で見守りが必要な方、災害時での対応、悪徳な訪問などの対応を話し合いました。

地区情報交換会開催日

8月24日（水）井手川・緑ヶ丘地区（5名）	10月 7日（月）府本地区（5名）
8月26日（金）荒尾地区（6名）	10月12日（水）中央地区（4名）
9月 2日（金）万田中央地区（3名）	10月13日（水）有明地区（5名）
9月 8日（木）万田地区（8名）	10月26日（水）平井地区（4名）
9月26日（月）桜山地区（3名）	10月28日（金）八幡地区（4名）
9月28日（水）清里地区（4名）	

福祉委員活動延件数

	26年度	27年度	28年度
相談件数	403	563	398
友愛訪問	11,209	10,640	9,676
情報提供	5,143	4,541	4,280
電話、その他	1,317	1,394	1,238
合計	18,072	17,138	15,592

(4) 地域福祉活動に対する地域への説明

加速化する高齢者が進む中で、高齢者、障がい者、子育て、見守りなど地域の課題に対して地域住民どうしのささえあい活動で課題の解決を図るものとして、ささえあい活動推進地区の取り組みを地域に推進しています。ささえあい活動に取り組んでいただくためには「地域のささえあいとは何なのか」ということへの理解が重要であることから、地域に対する説明会を開催し、住民の理解を得ながら進めているところです。

28年度については地域に対する説明会の開催件数も飛躍的に延びております。これは28年度より生活支援コーディネーターを4名配置し、地域包括ケアシステムの構築を目指す活動に取り組んだことと地域の意識がささえあいに向いてきたことが大きな要因として上げられます。

ささえあい活動などの説明

	実施回数
26年度	22回
27年度	39回
28年度	147回

【内訳】

ささえあい活動全般	49回
サロン活動	10回
徘徊模擬訓練	8回
見守り	13回
日常生活支援	20回
買物支援	15回
子育て支援	2回
貯筋体操	25回
移送支援	5回



△見守り活動説明会（東宮内）

(5) ささえあい活動実施に対する支援

ささえあい活動を地域が実施することに対する社協から支援を行いました。講師の紹介、昼食斡旋、遊具の貸出、買物支援物品の配達、などの支援を実施し新規に開催された地域に対しては積極的な活用を促しました。ささえあい活動実施区の増加に伴い、支援の回数も飛躍的に増加をしています。

	支援回数
26年度	65回
27年度	71回
28年度	107回

(6) ささえあい活動交流会

28年度よりささえあい活動に取り組む地域の情報交換を目的にささえあい活動交流会を開催しました。スライドで見えていただき、他の地区の参考となるような取り組みと出前講座講師やボランティアの紹介をしました。また、第2部ではグループワークを催し、参加者同士の情報交換も行ってもらいました。

期 日 3月16日(木)

場 所 あらおシティモール2階 シティホール

参加者 35名

内 容 1部 ささえあい活動事業紹介
スライドでの出前講座やボランティア活動についての説明などサロンの運営に役立つ情報の紹介をしました。



△グループワークの様子

2部 グループワーク

参加者の皆さんが普段の活動の中から自分の地域で自慢できる活動や人が集まる(来てもらう)をテーマに参加地域の取り組みについて話していただきました。

(7) 歳末たすけあい事業

歳末に地域住民同士が交流するための企画に対し、助成を行う事業です。28年度も地域活動特別助成と年賀状送付事業助成の2事業を実施しました。

1、地域活動特別助成事業

歳末に、もちつき、正月飾りの作成などの地域交流を図る事業を実施する区に対して必要な材料費の助成を行う。

	26年度	27年度	28年度
実施数	28	32	31

2、年賀状送付事業助成

地域で暮らすひとり暮らし高齢者の方に「この地域に住んでよかった」と幸せを感じていただくよう、年賀状を区より送付する事業に取り組んでいただける区に対して年賀状の現物給付を行う事業。

	26年度	27年度	28年度
実施数	16	19	16
給付枚数	278	318	278

（８）熊本地震支援活動

２８年４月に発生した熊本地震に対し、荒尾市社協では以下に示す活動に取り組んできました。

○災害ボランティアセンター活動支援

派遣期間 ４月～１１月

派遣人数 １９名

支援回数 ６７回

【内訳】

大津町 ８名 ３０回

益城町 １１名 ３７回



△ボランティアに救援物資の整理を手伝っていただきました。

○救援物資の募集、送達

期 間 ４月２０日（水）～４月２６日（火）

場 所 総合福祉センター

募集品目 ペットボトルの水、アルファ米、粉ミルク、紙コップ、紙皿、割りばし、
タオル、トイレットペーパー、ウェットティッシュ、生理用品、紙おむつ、
おしりふき、歯ブラシ、歯みがき粉、保存食（カップ麺、缶詰）
黒ごみ袋（小）、ラップ など

結 果 ５５品目 ２４,３３５個

送 達 先 熊本市、宇土市、宇城市、嘉島町、益城町、南阿蘇村

○日本赤十字義援金の募集

期 間 ４月１８日～３月３１日

募 金 額 １２,５５６,８１０円

○ボランティア保険の窓口業務（天災プラン加入）

加 入 者 ３０３名

（９）地域介護予防支援事業

２８年度も「住み慣れた地域でいつまでも元気に」をモットーに公民館に出向いて体操の指導を実施しました。２８年度からは歌に合わせた有酸素運動や２つのことを同時に行うダブルタスク、ラジオ体操などを新たに導入して筋力アップだけでなく柔軟性と心肺機能を向上させる運動にも力を入れてきました。教室の雰囲気づくりにも心掛けるように職員の共通理解を図り、笑いの絶えない雰囲気づくりに努め、参加しやすい教室づくりを行ってきました。その結果、２８年度については前年比５地区増の３５地区で貯筋体操を実施していただき、教室の実施回数、延べ参加者ともに大幅に増加するという結果となりました。さらに２８年度は、全地区の利用者にアンケート調査を実施しました。その結果、関節痛等の改善の声が多く聞かれ、社協が行う貯筋体操の有効性を確認することができました。

また、２８年度には職員が健康運動指導士の資格を取得することができました。今後はより専門性の高いプログラムを提供することが可能となり、今まで以上に介護予防の効果が望めるものと期待しています。

○研修等への参加

①健康運動指導士養成講習会（大阪 YMCA 国際文化センター）

参加人数：1 名

受講日：8 月 19 日（金）、20 日（土）、21 日（日）計 3 日間

内容：運動障害と予防、救急処置、栄養摂取と運動

②健康運動指導士養成講習会（福岡県中小企業復興センター）

参加人数：1 名

受講日：8 月 25 日、26 日、27 日、28 日 計 4 日間

内容：健康管理概論、健康づくり施策概論、運動プログラムの実際、
運動負荷試験

③健康運動指導士養成講習会（TKP 博多駅前シティセンター）

参加人数：1 名

受講日：9 月 8 日、9 日、10 日、11 日、12 日 計 5 日間

内容：生活習慣病、運動プログラムの実際、運動行動変容の理論と実際、
運動とこころの健康増進、栄養摂取と運動

○重点的に取り組んだ内容

①脳トレプログラム数の増加

②ダブルタスク（2 つのことを同時に行う）の採用

③音楽療法（歌の導入）

④リズム体操の増加

⑤ラジオ体操

⑥教室の雰囲気づくりの工夫

公民館へ指導者の派遣実績

	26 年度	27 年度	28 年度
実施地区	22	30	35
実施回数	560	586	682
延参加者数	6,648	7,377	8,231
延職員派遣数	1,134	1,181	1,384



△住吉町 体操の様子



△高浜区 修了式の様子

○はつらつ貯筋教室

毎週月曜日の午前に、総合福祉センター大会議室で実施しています。既存の参加者の口コミによって現在は登録者数が３９名と増加傾向にあります。荒尾市には公民館がない地域にお住まいの方も多く、そのような方達の受け皿として機能しています。

今後は２９年度より開始となった、介護予防通所型サービスＣの修了者を対象とした卒業教室としても活用していきたいと考えています。

	２６年度	２７年度	２８年度
実施回数	43	43	46
延参加者数	289	805	754
延職員派遣数	88	88	93
登録者数	18	32	39

（１０）地域活動備品貸出事業

ささえあい活動を実施する区に対し、備品等を貸出し活動支援を行いました。

備品貸出件数

	２６年度	２７年度	２８年度
大鍋			4 1
中鍋			9
鍋	4 7	5 0	9
炊き出し釜	1 1	1 3	1 6
調理器具	6 6	8 1	5 2
炊飯器	6	6	7
ガスコンロ		8	1 5
電源ドラム		3	3
テント		3	
机		2 3	6 9
パイプ椅子	1 1 0	1 3 5	1 0 0
スクリーン			2 6
プロジェクター	1 8	1 4	2 4
マイクセット	8	7	2 2
グランドゴルフセット	2 1 4	3 0	1 8
ブルーシート		1	2
アイマスク		1 7	
遊具	4 0	4 0	6 8
高齢者疑似体験セット	4 0	3 0	4 3
車いす	3 4	3 0	3 3
乗用車（８人乗り）			1
DVD			5

【ボランティアセンター事業】

（１１）災害ボランティアセンター設置訓練

２８年度は熊本地震の影響により地域住民の防災意識が向上しました。昨年同様、荒尾市総合防災訓練と共同で実施し、荒尾市役所駐車場に場所を設けセンター設置及び運営訓練を行いました。現地の災害ボランティアセンターへ支援に行った職員を中心に、実働型の訓練を実施し、現地での対応に近い内容で訓練しました。

また、ボランティア連絡協議会会員を始めとする、ボランティアに訓練への参加を呼びかけました。２８年度訓練では８３名の参加があり、参加されたボランティアの中には益城・大津・熊本市等、現地の災害ボランティアセンターに何度も支援に行かれた方がいらっしゃいました。

【防災会議】 ８月３１日（水）１５：００～
 １０月１４日（金）１４：００～
 １１月　１日（火）１４：００～

【訓練】

○開催日 １１月１９日（土）
 ○会　場 荒尾市役所南側駐車場
 ○内　容 災害ボランティアセンターの
 設置及び運営の訓練
 ○参加者 ８３名（ボラ連会員、高校生、一般参加）



△災害ボランティアの注意説明

（１２）熊本地震災害ボランティアセンター職員派遣（再掲）

昨年発生した熊本地震により、熊本県では１７ヶ所の災害ボランティアセンターが立ち上がり、荒尾市からは１０名の職員が現地入りをしました。荒尾市は益城町及び大津町より要請があり、延べ１９名、延べ６７日の支援を行いました。７月以降の支援は、荒尾・玉名郡市２市４町の合同支援となり、７月～１１月までの合同支援は延べ８９名・延べ１７６日の支援となりました。

災害ボランティアセンター職員派遣状況

月	派遣先	延人数	延日数
４	益城・大津	５	２０
５	大津	５	１８
７	益城	５	２１
８	益城	２	５
９	益城	１	２
１１	益城	１	１
計		１９	６７



△大津町での活動の様子

(13) 手話・点字・朗読ボランティア養成講座

ボランティア養成講座を実施しました。平成28年度は点字が1名、朗読が3名の受講でした。点字講座では、書籍一冊の点訳を目標として約半年間の講義がありました。朗読講座は閉講式に朗読の発表を行い、成果発表を行いました。手話講座に関しては、中・上級講座は継続して実施されます。

養成講座開設状況

	27年度			28年度		
	日数	人員	修了	日数	人員	修了
手話（上級）	39	125		43	338	
手話（中級）	39	296		43	143	
点字	30	87	3	25	25	1
朗読	13	34	3	12	34	3

(14) 生活支援ボランティア養成講座

28年度より生活支援ボランティアの養成講座を実施しました。市及び医師会と連携し、生活支援に特化した講座を実施しました。隔週金曜日に実施して、5名の講師に講演していただきました。参加者は58名で、ボランティア登録者は42名でした。

日時	演題	講師
9月2日	ボランティアって何？	熊本県社協ボランティアセンター センター長 桂誠一氏
9月16日	傾聴・コミュニケーション	メンタルコーチ 平野いずみ氏
9月30日	タブレット・パソコン講座	メディア交流館・小岱工芸館 館長 原建史氏
10月14日	おうちの整理術	日本ライフオーガナイザー協会 託摩美由紀氏
10月28日	生活支援ボランティアについて	合志市社会福祉協議会地域福祉課 課長 井手達也氏



△第1回ボランティア養成講座



△ボランティア養成講座修了式

(15) 福祉教育の支援

市内小学生に向けた福祉学習プログラムとして中央小学校と緑ヶ丘小学校の2校に福祉学習を行いました。中央小学校では車いす体験学習を実施して、車いす利用者の体験を通して福祉への関心を深めました。また、緑ヶ丘小学校の職業体験プログラムで福祉体験学習も実施しました。高齢者体験とそこに携わる職員の考え方、児童に考えさせる高齢者の日常生活の影響等、学習を行いました。その他高齢者疑似体験セットの貸出しも実施しました。

○車いす体験学習への職員派遣

日 時 7月1日(金)
場 所 中央小学校
参 加 4年生(3クラス:計83名)
内 容 車いすの使用方法について



△中央小学校の車いす体験学習

○緑ヶ丘小学校職業体験への職員派遣

日 時 10月16日(日)
場 所 緑ヶ丘小学校
参 加 8名(1年生2名、2年生6名)
内 容 介護体験学習、車いすの使い方について



△緑ヶ丘小福祉の職業体験

○福祉体験学習用具の貸出

10月14日 緑ヶ丘小学校
高齢者疑似体験セット(17組)
10月18日 有明小学校
高齢者疑似体験セット(5組)
11月10日 万田小学校
高齢者疑似体験セット(15組)

(16) ワークキャンプ

荒尾市内中高生を対象とした福祉施設体験学習を実施しました。荒尾市で展開している4事業所1地区で体験を行い、福祉の基礎や高齢者・障がい者とコミュニケーションを図り、福祉に対する意識向上に努めました。28年度は8日間で全35名の生徒に福祉体験学習を実施しました。

○実施学校 荒尾海陽中 5名
荒尾第四中 20名
有明高校 10名

○実施場所 わがんせ(にこにこわがんせ)
本村サロン、オレンジヒル小岱
ふれあい福祉センター
あおば(デイサービス・学童)



△中学生による福祉体験

○実施状況

・ 7月21日（木）	本村サロン	海陽中	2名
・ 7月25日（月）	オレンジヒル小岱	荒四中	11名
・ 7月26日（火）	オレンジヒル小岱	荒四中	10名
・ 7月27日（水）	デイサービスあおば	有明高	3名
・ 7月28日（木）	ふれあい福祉センター	有明高	2名
・ 7月29日（金）	学童保育あおば	有明高	3名
・ 8月 2日（火）	にこにこわがんせ	海陽中	3名
・ 8月 4日（木）	わがんせ	有明高	2名

（１７）情報誌の発行

市内でのボランティア行事の周知や地域住民へ向けたボランティア啓発を目的として、毎年4回情報誌の発行を行いました。ボランティアに関する講座やボランティア事業の連絡、市内ボランティア活動の紹介等、市内でのボランティア全般の情報提供を行いました。

○発行月 5月、8月、11月、2月

○発行形態 班回覧

（１８）ボランティアコーディネート

地域サロンや市内福祉施設を対象にボランティアコーディネートを実施しました。平成26年度より年間依頼数が100件以上となり、ボランティアに対する社会的ニーズも向上していると考えられます。登録数も増加して平成29年5月現在で全72件登録があり、28年度の新規登録数は10件となりました。また、28年度は熊本地震の影響により災害ボランティアのニーズが急速に増加しました。そのため、一般ボランティアニーズは前年に比べて減少傾向にありました。

ボランティアコーディネート数

26年度	110
27年度	139
28年度	116



△三味線演奏ボランティア

（１９）ボランティア連絡協議会の運営

市内ボランティア団体の協議体運営を行いました。市内でのボランティア啓発を目的とした行事への参加（荒尾市健康福祉まつり・ボランティア啓発イベント等）やボランティア団体紹介、市内ボランティア関連事業（荒尾市総合防災訓練）への参加をしました。現在、１２団体が連絡協議会に所属しており地域ボランティア啓発を行っています。また、他市町の連絡協議会との連携及び交流を目的とした荒尾玉名ブロックボランティア連絡協議会への参加など行いました。

○ボランティア連絡協議会総会

期 日 ５月１４日（土）
場 所 荒尾市社会福祉協議会 大会議室
内 容 ２７年度事業報告
２８年度事業計画
講演「今、私たちにできる防災」
講師 歌うママさん防災士 柳原志保 氏



△歌うママさん防災士
柳原志保氏による講演

○ボランティアやってみようフェア

期 日 １１月２３日（祝・水）
場 所 あらおシティモール１階 出合いの広場
内 容 ボランティアの啓発活動
・各団体のボランティア体験コーナー（８団体）
・三味線ボランティアによる演奏会
・朗読サークル、手話サークルによる
コラボパフォーマンス
・スタンプラリーの実施



△体験コーナーの様子

※その他参加行事

荒尾市健康福祉まつり、身障連いきいきフェア、赤い羽根共同募金街頭募金、荒尾市防災訓練（災害ボランティアセンター設置運営訓練）、荒玉ボラ連総会、荒玉ボラ連新年交流会

（２０）ボランティア保険事務

ボランティア保険事務を実施しました。熊本地震の影響により、ボランティア活動保険の加入件数が例年と比較して大幅に増加しました。

	２７年度		２８年度	
	件数	人数	件数	人数
ボランティア活動保険	44	458	160	689
ボランティア行事用保険	14	935	16	1,222

在宅生活支援部門

【介護保険事業（介護予防事業）】

（１）訪問介護事業（ヘルパーステーション）

介護や支援が必要な利用者の住み慣れた自宅において、それぞれの生活に合わせたサービスの提供及び可能な限り利用者が望まれるサービスの提供を行いました。

また、利用者の自立支援をめざし利用者本位、個人の尊厳等を念頭に置き援助に当たりました。事業所内部の研修会（毎月）及び外部研修にも多くの職員が参加してヘルパーの資質向上に努めました。

２８年度は、利用者の入所・入院・死亡等により、利用者数及び訪問回数共に前年比３％から６％の減になりました。また、ホームヘルパーの退職も利用延件数が減少した要因と考えます。ホームヘルパーの求人は継続して行っていますがなかなか採用に繋がらず、深刻な人材不足の状況にあります。しかし、サービス内容や訪問経路の見直し・工夫に努め、効率的なサービス提供による利用件数の増に努めます。

○外部研修

７月２０日 居宅生活介護事業所サービス提供責任者との
情報交換会

８月２４日～２５日 社会福祉協議会新任職員研修

１月２６日 熊本県障がい者虐待防止・権利擁護研修会

２月１５日 有明圏域障がい者と共に生きる支援協議会主催 講演会出席

２月２３日 熊本県訪問介護等従事者研修

２月２５日 熊本県難病疾患等ホームヘルパー養成研修

訪問介護事業利用延件数

	利用者数	訪問回数
２６年度	1103	13,760
２７年度	1132	12,365
２８年度	1063	11,983



△調理実習の様子

（２）訪問入浴事業（ヘルパーステーション）

利用者の個々の身体状況に応じて適切なサービスを提供し、利用者が安心して楽しく入浴ができるよう、スタッフ全員が敏速かつ確実な行動を心掛けました。２８年度の利用状況については利用者の死亡などにより利用者数、訪問回数とも減少しています。この減少傾向を懸念して、日本競輪補助事業の補助金により、移動入浴車を新しく購入しました。今回、購入した入浴車は小回りの利く軽自動車で、女性スタッフでも扱いやすい入浴車です。この入浴車の導入により、狭い道も入ることができ、今までお断りせざるを得なかった方に対してもサービスを提供できるようになりました。

また、利用者の負担を軽減するため、従来、利用者で準備をお願いしていたタオル、

バスタオルを社協で準備するようにしました。このことは利用者、ご家族に大変喜ばれています。そのほかにも28年度には、入浴技術の向上と軽自動車での収納術を学ぶため、他事業所に研修の受け入れをお願いしました。

○外部研修

5月16日・30日（月） 大牟田市社会福祉協議会 訪問入浴介護事業所

○事業改善策の実施

- ・入浴に必要な物品の提供

利用者側から洗濯物の負担の声を多数うかがっており、そのために他の事業所へ変更されることも実際にあったので、タオル、バスタオルを事業所で準備するようにしました。

- ・介護事業への定期的な訪問

月1回の事業所への訪問を行い、ケアマネージャーとの交流と社協移動入浴のPRを行いました。

○重点的に取り組んだ内容

- ・作業動線や手順の見直し

入浴準備・片付けの手順の見直しを行い、訪問時間の短縮を図りました。また、入浴車の棚を作り、収納術等の話し合いを随時行い、作業効率の向上を目指しました。

訪問入浴介護事業利用延件数

	利用者数	訪問件数
26年度	155	640
27年度	145	623
28年度	135	598



△日本競輪より移動入浴車購入のための助成をいただきました

(3) 居宅介護支援事業（ヘルパーステーション）

在宅の要介護者等が介護保険から給付される居宅サービス等を適切に利用できるよう要介護者等の依頼を受けて利用するサービスの種類・内容を定めた居宅サービスの作成、利用したいサービス事業所との連絡調整や介護保険施設への紹介等のケアマネジメントを行っています。

28年度は利用者がいつまでも自宅で暮らしていきたいとの希望を叶えるため可能な限り日常生活を営むことができるよう相談・調整に努めてきました。研修参加にて地域医療と行政、介護など多職種間の連携を構築させるための研修会等に積極的に参加し、ケアマネージャーとしての資質向上を図りました。

○外部研修への参加

・荒尾市在宅医療事例検討会への参加

6月1日（水） 緩和ケア領域における Mohs ペーストの使用法

8月3日（水） 荒尾市地域包括支援センターについて
荒尾市地域ケア会議の現状と展望

10月5日（水） 多職種で在宅生活を見守る
～多くの手・多くの視点・多くの気づき～

・荒尾市認知症キャラバンメイトの集い開催参加

7月25日（月） サポーター養成状況の報告、活動方針

・ほのぼの老人懇談会総会及び研修参加

7月21日（木） 熊本地震における災害支援活動について

・地域ケア会議参加

3月15日（水） 自立支援ケアマネジメントに向けた地域ケア会議について

居宅介護支援事業利用延件数

	居宅介護支援	介護予防支援	計
26年度	760	310	1,070
27年度	718	297	1,015
28年度	836	166	1,002

(4) デイサービス事業（交流拠点あおば）

デイサービスあおばでは、利用者一人一人の能力や希望に応じたレクリエーションの提供を心がけ、特に季節に合わせた大型展示物の製作は、利用者皆さんが力を合わせ仕上がるような様々な工夫をしました。利用者については、6名が新規利用となりましたが、入所等で3名減となり、特に年度末は長期の入院やショートステイ利用等で2名が利用停止の状態となっています。

28年度より地域密着型デイサービスに移行し、認知症カフェの開催等を通じ、より地域に根差した事業の展開を考えてきました。認知症カフェについては補助金の廃止の影響により28年度には開始できなかったものの、サロンとの交流会を実施したことによる地域との交流事業に関しては地域からの大きな反響があり、今後の事業の展開に一石を投じる形となりました。

○機能訓練の実施

これまで特定の方にしか実施できなかった訓練ですが、職員体制が整ったことで全員が個別機能訓練の対象となり、一層の訓練充実と、運動機能向上に向けての取り組みができるようになりました。

○施設外レクリエーション

- ・買い物訓練（ダイレックス）
6月1日（水）～6月6日（月）
10月21日（金）～10月22日（土）
- ・金魚の郷散策
10月12日（水）
- ・コスモス見学・食事会（七城町）
10月25日（火）
- ・大型ショッピングモール散策
1月25日（水）



△デイサービスの様子

○学童児や地域との交流

- ・打越区サロンとの交流会
12月13日（火）
- ・年忘れ会
12月24日（土）
- ・学童児との交流レクリエーション
毎週土曜日



△打越区サロンとの交流会

○製作、レクリエーション等

- ・大型展示物（初夏の風景・夏の畑・秋の風景・冬景色・お雛様等）
- ・おやつ作り（フルーツ寒天・みたらし団子・お好み焼き等）
- ・個別製作（うちわ・絵手紙・干支飾り・写真立て等）
- ・そうめん流し、ひな祭り押し寿司、布巾縫い、寄せ植え等

○地域密着型運営推進会議

6月23日（木）、11月24日（木）

○認知症カフェへの取り組み

今年度から認知症カフェを開催するにあたり、カフェ内容やチラシ作成・周知方法等の会議を行ってきましたが、申請をする予定の補助金が廃止となったため、開始時期が定まらず、実施には至りませんでした。（29年6月から毎週水曜日に実施予定としています。）

デイサービス事業延利用者数

	26 年度	27 年度	28 年度
開所日数	306	306	303
延べ利用者数	1,913	1,836	1,755
一日平均	6.25	6.00	5.79



△季節に合わせた大型展示物の作成

(5) 介護保険対象外ホームヘルプ事業（ヘルパーステーション）

介護保険以外のサービスで自立の方や、介護保険の認定を取得しながらも入院等により介護保険を使えなくなった方など、利用者のニーズに合わせてサービスを行ないました。

介護保険対象外ホームヘルプ事業利用延件数

	26 年度	27 年度	28 年度
上乗せサービス	4	3	14
横だしサービス	72	96	73

【障がい福祉サービス事業】

（６）居宅介護・重度訪問介護・同行援護事業（ヘルパーステーション）

様々な障害をお持ちの利用者宅において 介護計画に基づきサービスの提供を行いました。28年度は居宅介護において、下期より大幅な利用減（利用者の入所）となったこともあり相談支援事業所や施設等を訪問し、事業のPRや新規利用者の獲得に努めました。29年度も引き続き営業活動に力を入れております。

居宅介護・重度訪問介護・同行援護事業利用延件数

	26年度	27年度	28年度	
	利用者数	利用者数	利用者数	訪問回数
居宅介護	198	195	197	3,485
重度訪問介護	12	12	12	1,012
同行援護	51	65	60	331

（７）地域生活支援事業（ヘルパーステーション）

移動支援・障がい者訪問入浴事業利用延件数

	26年度	27年度	28年度
移動支援事業	11	12	6
障がい者訪問入浴	47	53	52



（８）児童発達支援、放課後等デイサービス（ふれあい福祉センター）

障害児通所支援では、利用者が日常生活における基本的動作及び知識技能を習得し、並びに集団生活に適應することができるよう、また、利用者が生活能力の向上のために必要な訓練を行い、及び社会との交流を図ることができるよう、利用者に対する直接的な支援を行うとともに、その保護者や関係機関との連携により、生活環境の調整などの間接的な支援も行っています。

○放課後等デイサービスの事業拡大

10月より、放課後等デイサービス実施日を土曜日まで拡大しました。

○職員のスキルアップ

常勤職員それぞれが、担当児童に対し直接支援から保護者支援、関係機関との連携までの総合的な支援を行うことができるよう、以下の方法・内容でスキルアップに努めました。

①職員それぞれの役割を明確にし、職員会議にて共通理解を図りました。

②保育士等スキルアップ研修参加（熊本県こども総合療育センター主催）

参加数 1名

受講日 10月25日（火）、11月8日（火）、11月9日（水）、11月30日（水）
1月10日（火）、1月19日（木）、の計6日間

内 容 作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、心理療法士、保育士による講話、
施設実習、意見交換会

③日本版 Vineland-II 適応行動尺度勉強会（NPO法人 アスペ・エルデの会主催）

参加数 2名

受講日 11月5日（土）

内 容 日本版 Vineland-II を用いた適応行動把握による個別支援計画立案に向けたアセスメントについて

④H28年度熊本県児童発達支援管理責任者研修の企画・運営・演習講師（ファシリテーター）に係る養成研修、会議等

参加数 1名

研 修 9月6日（火）

会 議 12月7日（水）、1月20日（金）

演 習 1月30日（月）、1月31日（火）、3月7日（火）、3月8日（水）

内 容 個別支援計画作成演習

⑤内部研修（熊本県こども総合療育センターに専門講師派遣依頼をして実施）

参加数 6名

実施日 11月25日（金）、2月24日（金）

内 容 「感覚統合について」「ことばの発達とカードコミュニケーションの実際」

⑥内部研修（ケース会議）

参加数 7名

内 容 2～3か月ごとに計10～12時間程度かけて利用者全員のケース会議を行い、利用者の現状と支援内容についての共通理解を図りました。その際研修での学びを積極的に取り入れるように努めました。

○関係機関との連携

- ・あゆみをはじめとする各相談支援事業所と密に連絡を取り、家庭生活や学校生活への支援に努めました。また、荒尾市福祉課、教育委員会、荒尾支援学校との連携により、就学支援にも力を入れました。
- ・荒尾市教育委員会からの委嘱を受け、荒尾市特別支援連携協議会委員となり、意見交換等を行いました。
- ・荒尾市児童生徒就学支援委員会（教育委員会内）からの依頼により、有明圏域の療育支援体制と療育内容等について研修を行いました。

- ・‘荒尾市障がい者自立支援懇談会子ども部会’にて中心的役割を担い、荒尾市内の福祉・保健・医療機関等と連携し、荒尾市内の子育て世帯に向けて情報提供を行っています。子ども部会では、荒尾市内に潜在する「子どもの発達について困り感を持つ家庭」に対する情報提供が重要と考え、作成した情報提供書類を、市内の全保育園・幼稚園の年少～年長児全員に配布し、全小中学校には掲示を依頼して周知に取り組んでいます。

[子ども部会の活動内容]

①就学学習会の開催

開催日 6月26日（日）10時～12時

場 所 荒尾市ふれあい福祉センター

参加者 発達に心配のある幼児の保護者 18名

内 容 支援学校や特別支援学級への就学手続きについての説明及び座談会。

②子どもの発達に困り感のある保護者への情報提供書類の改訂、配布

「荒尾市子どもサポートネットワーク」…相談窓口を掲載

「荒尾市就学支援マップ」…就学に係る手続きの流れ、相談会の日程等を掲載

児童発達支援利用状況

	26年度	27年度	28年度
男 性	306	555	528
女 性	130	73	187
合 計	436	628	715
平 均	2.69	4.80	4.73
実施日数	162	131	151

放課後等デイサービス利用状況

	26年度	27年度	28年度
男 性	1,348	1,372	1,429
女 性	469	336	209
合 計	1,817	1,708	1,638
平 均	7.45	8.20	7.65
実施日数	244	209	214

(9) 生活介護事業（ふれあい福祉センター）

常時介護を要する利用者に対し、入浴、排せつ又は食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供を行っています。28年度においては、障害支援区分の高い新規利用者の方を積極的に受け入れました。また、地域ニーズ充足のため、南関町、玉名市、長洲町などへ送迎区域を拡大した結果、新規利用者6名増となりました。契約登録者はH28年3月末現在で知的利用者11名、身体利用者21名の計32名です。

課題として利用者増に伴う支援員のマンパワー不足が懸念され、特に男性利用者の入浴介助においては対応が必要です。また、送迎エリアの拡大に伴う送迎ルートの再検討も必要と思われます。次年度以降についても今年度同様継続して、新規利用者の獲得及び職員スキルアップに努めたいと思います。

○臨時開所（入浴サービスの提供）

地域活動支援センターと合同で年末年始に臨時開所し、入浴サービスを提供しました。

12月30日（金）9名（うち生活介護6名）

○重度障がい者の受け入れ

通常の事業実施地域外の重度利用者を積極的に受け入れ、地域のニーズ充足に努めました。

居住地	人数	性別	区分	障がい程度区分
南関町	1	男性	肢体	区分6
玉名市	1	男性	肢体	区分6
長洲町	1	女性	精神	区分5
荒尾市	3	男性	知的	区分3
		男性	肢体	区分3
		男性	肢体	区分2

※障害支援区分が支給される前の利用者の方へも、併設する地域活動支援センターと連携し利用受け入れを柔軟に対応しました。（支給決定後は生活介護へサービスの切り替えを行いました。）

○研修会への参加

以下の研修・交流会に参加し、利用者の皆さまへの声掛けや介助、支援方法に役立てました。また、研修で学んだコーチングスキルを用いて課内研修を実施し、スタッフ間の連携を深めました。

①平成28年度モチベーションアップ研修会

受講日 8月2日（火）8月3日（水）

場 所 熊本県総合福祉センター

参加者 1名

内 容 チーム・モチベーションを高める、伝える力の高め方、福祉職のための実践
コーチング、コーチングスキルトレーニング等

②生活介護事業所サービス管理責任者との情報交換会（有明圏域）

開催日 9月21日（水）

場 所 和水町役場

参加者 2名

内 容 有明圏域内の相談支援専門員と生活介護所サービス管理責任者との顔合わせ、情報交換会等

③平成28年度熊本県障害者虐待防止・権利擁護研修会

開催日 1月26日（木）

場 所 熊本県庁

参加者 1名

内 容 障害者虐待防止法の概要、県内における障害者虐待事例、虐待の状況について

④平成28年度熊本県サービス管理責任者研修 就労分野

開催日 3月23日（木）3月24日（金）

場 所 くまもと県民交流館パレア

参加者 1名

内 容 就労系事業所におけるサービス管理責任者の役割、アセスメント演習、個別支援計画作成演習、中間評価と計画修正演習等

生活介護事業利用状況

	26年度	27年度	28年度
知的障がい	2,169	2,318	2,349
身体障がい（精神含む）	1,854	2,089	1,997
合計人数	4,023	4,407	4,346
平均人数	13.2	14.4	14.2
実施日数	304	305	304



△日帰り旅行（身体）の様子柳川にて車いす利用者の方も含め、川下りを体験しました。



△お楽しみ会の様子
様々な障がいをお持ちの皆さんが一緒に歌や踊りで交流を深めました。

(10) 地域活動支援センター（ふれあい福祉センター）

障害をお持ちの方へ講座活動、機能訓練、社会適応訓練及びレクリエーション等の日中活動の機会を提供し、食事や入浴、必要な方には介助も行い一日を活動的に過ごしていただくために努めています。今年度は、七夕や福笑い、豆まき等の季節感をより感じていただけるように、イベントに変化を加えていきました。

今年度は他福祉団体への手伝いや実習生・職場体験の積極的な受け入れ、さらにサービスを必要とされる方々を生活介護事業へ繋ぐなど、地域活動支援センターとしてより良く機能するよう努めました。

○行事

- ・大型連休中の入浴サービス（生活介護事業と合同）

期 日 12月30日（金）

利用者 9名（内地活3名）

- ・日帰り旅行（生活介護事業と合同）

期 日 11月 2日（水）

場 所 柳川御花

参加者 23名（内地活12名）

- ・餅つき大会（あゆみの利用者も参加）

期 日 12月9日（金）

参加者 45名（内地活26名）

- ・節分豆まき（生活介護事業と合同）

期 日 2月1日（水）

参加者 23名（内地活5名）

- ・お楽しみ会（生活介護事業と合同）

期 日 3月31日（金）

参加者 41名（内地活20名）



△レクリエーション（福笑い）



△節分豆まきの様子

○内部研修

- ①5月19日（木） HTLV-1について
- ②8月18日（木） 自分の特性・タイプを知ろう！
- ③1月19日（木） 虐待防止について

地域活動支援センター利用状況

	26年度	27年度	28年度
男 性	1,057	945	803
女 性	747	639	555
合 計	1,804	1,584	1,358
平 均	7.42	6.57	5.6
実施日数	243	241	241

講座別延利用者数

講座名	利用者数
パソコン	51
生け花	51
書道	68
カラオケ	37
合計	207

(11) 相談支援事業（ふれあい福祉センター）

荒尾市社協相談支援センターあゆみでは障がいをお持ちの利用者及び家族の相談、行政やサービス事業所との連携に積極的に取り組みました。

特に障害児相談支援の児童発達支援を利用される利用者が増加しており障害児支援計画や継続サービス利用支援を作成する上で「地域療育センターふれあいなかま」との連携が必要不可欠になっています。

○研修等への参加

①有明圏域障がい者と共に生きる支援協議会

- ・定例会議 毎月開催
- ・災害支援プロジェクト会議
開催日 8月30日（火）
- ・子ども部会会議
開催日 5月10日（火）、6月26日（日）
- ・就労部会
開催日 2月3日（金）
- ・地域移行支援プロジェクト
開催日 3月10日（金）

②熊本県障がい者相談支援事業連絡協議会

- ・平成28年度総会
開催日 9月10日（土）
- ・県北ブロック研修会
開催日 3月6日（月）

③成年後見制度促進研修会

開催日 2月22日（水）

④事業所説明会

- ・てとてのキッズ
開催日 1月14日（土）

相談支援利用者数

	26年度	27年度	28年度
計画相談支援	20	37	42
障害児相談支援	0	24	37
合 計	20	61	79

【子育て支援】

（１２）学童保育事業（交流拠点あおば）

学童クラブあおばでは、子育てと仕事の両立支援、児童の健全育成の充実、児童の安全確保の為、保護者のニーズに応えることが出来るよう、受け入れ体制を工夫しました。また、児童一人一人の学力に応じた指導を徹底し、特に一年生に関しては国語・算数の基礎的な力を養えるよう、家庭とも連携し支援を行いました。２８年度の申請者は７７名でしたが（締め切り後の電話等の問い合わせを含めると８７名）、子育て支援課による加入決定に係る基準に沿って各家庭を点数化し、５４名の受け入れを行いました。特に夏季休暇に関しては、順番待機をされている家庭を優先に受け入れを行いました。

○活動報告

- １回／月 誕生会
- 夏休み クッキング（ホットドッグ・混ぜご飯・弁当作り等）
ミニ映画鑑賞
水遊び・湯遊び・ボディペインティング等
外食会（すたみな太郎）・映画鑑賞（イオンモール）
- １２月 年忘れ会
- ３月 救命救急学習会
外食会（ホテルヴェルデ）

○研修等への参加

子どもを含み家庭への支援が充実できるよう、職員のスキルアップを行いました。

①荒尾市学童保育協議会全体研修

- 参加人数 ６名
- 受講日 ４月１９日（水）
- 内 容 ＫＪ法による「市内学童クラブの現状と課題について」

②荒尾市学童保育協議会スキルアップ研修

- 参加人数 ６名
- 受講日 ７月 ５日（火）
- 内 容 「保育の難しい子の理解と対応」

③有明地域療育センター研修

- 参加人数 ６名
- 受講日 ９月２７日（火）
- 内 容 「学童保育の現状や課題について」

④有明地域療育センター研修

- 参加人数 ５名
- 受講日 １１月３０日（水）
- 内 容 「気になる子への接し方について」

○関係機関との連携

①荒尾市学童保育協議会会議

4月19日（水） 総会（支援員でのディスカッション）
 11月 1日（火） 代表者会
 12月19日（月） 担当者会

②学校との連絡会議

8月26日（金） 全担任との連絡会

③教育委員会との連携

2月16日（木） 荒尾市教育長と各クラブ代表者の連絡会
 学童保育の現状と課題について、教育委員会の協力をお願いしました。

学童保育事業利用状況

	26年度	27年度	28年度
開設日数	291	291	291
通常登録児童数	44	47	42
長期休暇登録児童数	15	12	12
延べ利用者数	—	9,396	9,190

個別相談状況

区分	内容	相談件数
自身の問題行動等	暴言や暴力への対応について	6
児童間の人間関係	他児との多発のトラブル	3
職員の言動・態度	支援員の接し方について	2

※家庭支援を目的とした相談より、他者との人間関係に関する「指導」の類に入る相談件数が多くありました。



【総合生活支援】

（１３）福祉給食事業（ふれあい福祉センター）

主に一人暮らしの高齢者や高齢者世帯及び心身の障がいを持った方など、食事の調理が困難な方を対象に、味付け・栄養のバランス等に配慮した、昼食及び夕食を提供する事により、利用者の健康状態の維持・向上を図るとともに、併せて安否確認を行いました。

２８年度は、福祉給食を地域や民生委員、福祉関係者などへＰＲし続けた結果、利用対象者が増え、配食数は５,５８８食増加の年間６６,７１０食となりました。

○重点的な取り組み

・バランスの取れた食事の提供

一人暮らしや高齢者世帯等で、身体的状況等により食事を作る事が困難な方へ栄養バランスのとれた、昼食及び夕食の配食サービスを行いました。

・サロン等地域への周知活動

今年度も校区民協やいきいきサロン等への周知に努め、前年度より食数を延ばす事ができました。

・健康状態及び安否の確認

福祉給食の配食サービスを行う事により、利用者の健康状態の把握や声掛け、安否確認を行いました。訪問時に不在で安否確認ができなかったケースが数件ありました。その内の１件は室内で死亡を確認し、荒尾市福祉課や関係機関等との連絡・連携により適切に対応いたしました。

利用人員

	２６年度	２７年度	２８年度
昼 食	1,307	1,442	1,398
夕 食	2,770	2,704	3,275
合 計	4,077	4,146	4,673
配食日数	256	258	257
実人員	261	267	307



△配食サービスで自宅にお届けしています

年間配食数

	２６年度	２７年度	２８年度
昼 食	17,326	22,580	16,783
夕 食	42,211	38,542	49,927
合 計	59,537	61,122	66,710



△盛り付け作業の様子

(14) 地域福祉権利擁護事業

通帳や年金証書などの大切な書類を管理することに不安がある方の財産や権利を守るため、日常的な金銭管理や通帳を預かる事をおして利用者が住み慣れた自宅で安心して生活が送れるよう支援します。昨年に比べ、契約数、解約数ともに増加しており、徐々にではありますが年度末契約数は増加傾向にあります。また、昨年は玉名市社協において成年後見へ移行したケースの事例発表を行っています。

○研修会等への参加

地域福祉権利擁護事業 生活支援員研修会

期 日 9月1日(木)

場 所 県社協

地域福祉権利擁護事業 担当者会議

期 日 9月30日(金)

場 所 県社協

玉名市社協 事例発表

期 日 10月14日(金)

場 所 玉名市社協

内 容 権利擁護事業契約から首長申し立てを経て
成年後見へ至ったケースについての事例発表

地域福祉権利擁護事業実績

	26年度	27年度	28年度
訪問件数	557	599	754
電話対応件数	1,654	1,934	2,480
新規契約件数	3	5	9
解約件数	4	3	7
年度末契約件数	15	17	19

(15) 成年後見制度法人後見受任に向けた取り組み

実際の受任に向けた取り組みに力を入れてきました。市民からの後見制度に関する相談を受けながら、9月には荒尾市が行う市長申立に対し、社協を成年後見人候補者に指名してもらい、書類の提出を行いました。しかし、申し立てに係る本人の死亡により実際に後見人としての業務を受任するまでに至りませんでした。今後もこのような形で荒尾市と連携しながら、受任を目指していきます。また、研修会等にも積極的に参加し、職員のスキルアップを図りました。

○研修などの活動

9月30日（木） 申し立てに係る書類作成及び市への提出

1月26日（金） 成年後見制度首長申立促進研修会 1名参加

（１６）生活福祉資金

低所得者世帯、障がい者世帯、高齢者世帯に対して資金の貸付と必要な相談支援を行う事により経済的自立および生活意欲の助長ならびに在宅福祉および社会参加の促進を図り安定した生活を送れるように支援します。28年度も荒尾市が実施する生活困窮者自立支援事業と連携を図ることでお互いの事業の相乗効果が期待できると考えています。

貸付相談・償還指導等件数

	26年度	27年度	28年度
貸付相談対応	335	365	183
償還指導	308	197	97
申請決定数	4	4	4

（１７）生活資金

生活に困窮する方が社会から孤立せずに地域で暮らせるように生活のための資金を貸し付けています。28年度はフードバンク事業を試験的に開始したことから、そちらの事業との連携を図り、食料に困窮される方には食糧を生活の為に必要な資金が必要な方は貸付をとという具合にすみ分けを行い、効果的な支援を行うことができました。

相談・貸付件数

	26年度	27年度	28年度
相談件数	54	44	58
相談延件数	183	197	291
貸付件数	35	32	30

（１８）フードバンク事業

民間企業のカーブスのフードドライブ活動によって集めていただき食料品を緊急に食料が必要な方へ提供する事業を試験的に実施しました。3月より開始して一月あまりで多くの方の食糧支援を行い、効果とニーズの検証を実施しました。その結果ある程度のニーズがあることが判明したため、次年度において取り組みを進めることにしました。子ども食堂との連携も考えながら事業を展開していきたいと考えています。

○カーブスからの寄付

寄付日 2月20日（月）

寄付者 株式会社 カーブス

物 品 食料（賞味期限の6月以降のもの）調味料、缶詰、米、インスタント麺
乾麺（パスタ、うどん、そば、そうめん）など

数 量 段ボール18箱分 428品

○事業の試験的導入

開始日 3月2日（木）

○28年度実績

提 供 8名支援 合計155品を提供



△カーブスよりご寄付いただきました

（19）訪問理美容サービス事業

自宅で理容室や美容室に行くことができない方に対し、荒尾市内の組合に属する理容師や美容師を自宅まで派遣してカット等を行う。年間800人を超える依頼があります。

訪問理美容サービス事業実績

	26年度	27年度	28年度
事業所	170	157	164
利用者	767	841	819

（20）心配ごと相談事業

熊本県司法書士会に依頼して近隣の司法書士を派遣していただき相談にあたっています。相談件数が増えない状況であるが、社協だより等に掲載した月は利用が多いため、今後も社協だよりに相談の開催を掲載して啓発を図ります。また、他機関へのつなぎや直接相談に職員が入るなどして、司法書士の専門外の相談について支援を行いました。

○相談者数 9名

相談処理状況

	26年度	27年度	28年度
解 決	3	8	6
再 来	0	0	0
民生委員	0	0	0
他機関	0	1	0
その他	2	0	3
合 計	5	9	9

法人運営部門

【広報、他団体事務、管理運営】

(1) 広報活動

社協だよりを奇数月に発行し、社協の取り組みの状況を住民に周知をしました。広報活動としてはこのほかにも紙媒体としてはボランティア情報の発行を年に4回発行をしました。また、ホームページ、SNSなど若い世代に向けた情報発信も随時更新を行い、社協の活動が多くの方に目にとまるよう工夫しました。

広報紙発行状況

	発行回数	配布方法
社協だより	年6回	全戸配布
ボランティア情報	年4回	班回覧

(2) 共同募金、日赤団体事務

各世帯からの戸別募金が区での厳しい予算状況を反映して年々減少傾向にあるところであるが、それを補うべく職域募金、法人募金、学校募金などその他の募金に力を入れた結果、全体としての減少を抑えることができました。今後も募金活動の工夫を取り入れ、増額を図り、地域福祉の財源確保に努めたいと考えています。

募金実績額

	共同募金	日赤社資
26年度	8,624,630円	7,081,840円
27年度	8,220,768円	6,656,797円
28年度	8,213,011円	6,658,318円

(3) 災害見舞金事業

28年度は荒尾市内において災害見舞金を支払うような火災または災害がありませんでした。

災害見舞金支払件数

	件数	金額
26年度	5件	220,000
27年度	5件	170,000
28年度	0件	0

(4) 法外援護事業

行路困難者旅券配布状況

	件数
26 年度	10 件
27 年度	11 件
28 年度	10 件

(5) 実習生受入れ

実習別受入状況

種 別	26 年度		27 年度		28 年度	
	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数
社会福祉援助技術現場実習	4	92	1	23	3	69
訪問介護員養成研修（実習）	17	51	10	30	2	50

(6) 職場体験事業

利用状況

受入事業名	26 年度		27 年度		28 年度	
	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数
デイサービス	0	0	1	5	1	5
生活介護事業	3	9	0	0	7	9
障がい児発達支援					1	5

(7) 総合福祉センター管理運営

利用状況

	26 年度		27 年度		28 年度	
	件数	利用人員	件数	利用人員	件数	利用人員
老人団体関係	1	20	1	20	3	60
身体障がい者関係	0	0	0	0	0	0
市役所	26	607	34	590	33	546
民生委員	52	572	104	1,399	121	1,551
遺族会	0	0	0	0	0	0
保護司会	6	120	6	140	9	190
社協	96	1,341	69	1,214	116	1,612
児童関係	0	0	0	0	0	0
その他	12	302	15	380	14	315
計	193	2,962	229	3,743	296	4,274

(8) ふれあい福祉センター管理運営

利用状況

	26 年度		27 年度		28 年度	
	件数	利用人員	件数	利用人員	件数	利用人員
障がい者関係	143	643	102	602	100	652
ボランティア	224	1,563	219	1,531	198	1,333
民生委員	12	192	12	192	12	171
保健所	0	0	0	0	0	0
学校関係	0	0	0	0	0	0
公務	24	123	65	434	5	53
社協	15	133	21	165	14	120
地域住民	0	0	0	0	0	0
その他	37	474	31	442	36	337
計	455	3,128	450	3,366	365	2,666

(9) 潮湯管理運営

利用状況

	27 年度			28 年度		
	利用人員	敬老月間	計	利用人員	敬老月間	計
市内利用者	30,708	585	31,293	30,404	624	31,028
市外利用者	1,296	42	1,338	1,111	26	1,137
計	32,004	627	32,631	31,515	650	32,165

(10) 市民病院内売店事業

営業状況

	26 年度	27 年度	28 年度
営業日数	306	307	304
来客数	62,980	64,293	66,428